

▼リムパーザ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】オラパリブ Olaparib 【分類】抗悪性腫瘍剤 [PARP 阻害剤]

【単位】 ▼100mg・▼150mg/錠

【常用量】 1回 300mg 1日 2回 [適宜減量]

【用法】 1日 2回

【透析患者への投与方法】 CCr 30 未満でのデータなし (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 血中濃度が上昇するおそれがあるため減量を考慮し有害事象発現に注意 (1) CCr 30 未満でのデータなし (1)

腎機能低下時に半減期は短縮するが、Cmax が上昇するため AUC が増大 (1)

【特徴】 白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣がんにおける維持療法、BRCA 遺伝子変異陽性の卵巣癌における初回化学療法後の維持療法、がん化学療法歴のある BRCA 遺伝子変異陽性かつ HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌に適用。

DNA 一本鎖切断修復の主要酵素であるポリアデノシン 5' ニリン酸リポースポリメラーゼ (PARP) を選択的に阻害。DNA の二本鎖切断修復機構である相同組換え修復が機能していない癌細胞に選択的に作用し細胞死に導く。相同組換え修復機能不全 (HRD) には BRCA 等の関与が知られており、乳癌、卵巣癌、膵癌、前立腺癌等の一部に BRCA 遺伝子変異が認められている。

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

偽性の Scr 上昇の可能性 [尿管分泌阻害] (Zibetti Dal Molin G, et al: Int J Gynecol Cancer 2020 PMID: 31792084)

クレアチニンの尿管分泌を阻害し、eGFR (creat) が平均 13%低下して算出されるため、CysC を評価する (Bruin MAC, et al: Eur J Clin Pharmacol 2021 PMID: 33319340)

【吸収】 食事の影響を受けない (1)

【F】

【tmax】 2hr (1)

【代謝】 CYP3A4/5 で代謝 (1) 代謝物に活性なし (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 15%、尿中回収率 44% [po, 7日間] (1) P-gp の基質 (1)

【CL/F】 7.4L/hr (1)

【t1/2】 9~15hr (1)

【蛋白結合率】 82% [Alb 56%, AAG 29%] (1)

【Vd/F】 158L/body (1)

【MW】 434.46

【透析性】

【O/W 係数】

【相互作用】 CYP3A4 の阻害剤による AUC 増大、誘導剤による AUC 低下 (1) P-gp, OATP1B1, OCT1, MATE1 を阻害 (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20220502

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。